

令和5年度 学力向上ブランドデザイン

1 一覧

教育目標		
地域の未来を切り拓く 自立した児童の育成		
保護者の願い	児童の実態	教師の願い
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の意見や考えを表現、行動できるようにしてほしい。 ○ 何事にも粘り強さと柔軟に対応する力をもってほしい。 ○ 挨拶やマナーなど基本的な社会性を身に付けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT 活用力が高く、地域のために何かしたいと思っている児童が多い。 ○ 難しいことや苦手なことは、すぐに諦めてしまう傾向がある。 ○ 行動が受け身で、主体的な判断力や行動力が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者を意識し、コミュニケーションができるようになってほしい。 ○ 自分を知り、「やればできる」方法を考え、行動できる力を身に付けてほしい。 ○ 生活の中での役割や意義を理解し、大切さに気付いてほしい。
学力向上の基本方針		
○ 地域社会と連携協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質能力を育む主体的・対話的で深い学び。		

地域・家庭との連携	令和5年度の重点目標	教科・領域等との関連 (次頁関連表)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭と連携して ICT を活用し、家庭学習の充実を図る。 ○ 週末の学習課題の確実な実施、見取りを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が主体的に学べる授業の工夫。 ○ 児童一人一人の基礎・基本の確実な定着。 ○ 問題解決型授業の充実。 ○ 表現力の向上と伝え合う力の育成。 ○ 家庭学習の質的向上。 	

本校の共通理解事項	
指導の重点について	
“主体的に取り組む力”	
<p>1 「授業スタンダード」を生かした授業の質的改善に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ぶれない導入と終末の軸 ⇒ 「本時のめあて」と「本時のまとめ」のつながりを明確にする。 (2) 個に応じた指導の工夫 ⇒ 学力に応じた活用問題・補充問題を提示する。 (3) 学び合いの充実 ⇒ グループや全体での話し合い活動の場を設ける。 (4) 習熟の時間の確保 ⇒ 学習内容の定着を図る適用問題に取り組む機会と場を設ける。 (5) 振り返りの機会の確保 ⇒ 自己評価や相互評価から、満足感や自己肯定感をふくらませる。 <p>2 「家庭学習スタンダード」や ICT を生かした学習の習慣化の実現に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 家庭学習の進め方の指導 ⇒ 「家庭学習メニュー」や ICT を活用して、家庭での学習の進め方を繰り返し指導する。 (2) 保護者との連携を深化 ⇒ 「家庭学習カード」や ICT を活用して、家庭での学習が充実するように連携を深める。 (3) 読書の習慣化 ⇒ 週末の家庭学習で、家庭読書を行う。 図書委員会でイベントを企画したり、学校司書と協力して読み聞かせやブックトークを行ったりして、読書の楽しさや充実感を味わえるような働きかけをする。 (4) キャリア教育の視点 ⇒ なぜ学ぶことが大切かをキャリア教育の視点から指導する。 <p>3 組織的に学力向上に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 漢字オリンピックの実施 ⇒ 漢字の基礎的学習成果を確認するために、学期末に全校生で行う。 (2) 活用力育成シートの実施 ⇒ 活用力育成シートを活用した授業を行い、学習を評価・改善する。 (3) 個に応じた指導の工夫 ⇒ 実態に応じて T・T による指導や取り出し指導を行う。 	

- 4 学力の実態を把握し効果的な改善策に取り組む。(PDCA サイクル)
- (1) 各種学力検査の実施 ⇒ 県・全国平均との比較から、児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導に取り組む。
- (2) 学習状況調査の実施 ⇒ 各調査から、学習意欲等の実態を把握し、改善の指導に取り組む。
- 5 下郷町四つ葉のクローバープランに取り組む。
- 小中連携の取り組み ⇒ 下郷町学力向上プラン、「下郷町学びの手引き」の理解と実践に取り組む。

教科・領域等との関連	
各教科	
○	教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を基礎として指導する。
特別な教科道徳	
○	各教科・特別活動及び日常生活の中で、豊かな体験活動を通して、道徳的な実践力の向上を図る。
総合的な学習の時間	
○	総合的な学習の時間を通して、学んだことを生かす力の育成を図る。
生徒指導	
○	日頃の学級経営の充実を図り、生徒指導の機能を生かした授業の展開に努め自己存在感や成就感を味わわせる。
教育環境の整備	
○	言語環境の整備を図る。地域教材の積極的活用に取り組む。読み聞かせなど図書館教育と関連付ける。

『活用力育成シート』『学力テスト』の活用計画 及び「漢字オリンピック」の実施計画

月	『活用力育成シート』『漢字オリンピック』の活用計画	担当
4	○ 全国学力・学習状況調査(6学年) ○ 学力テストの分析による学力向上計画の作成(国語科・算数科)	教務, 6学年 教務, 全学年担任
5	○ 知能検査の実施 ○ ふくしま学力調査(4~6年) ※ 個別に支援を要する児童の「指導計画」作成P(前期)・実践D(~8月)	当該学年 教務, 4,5,6年担任 該当学年・担任外
6		
7	◆ 第1回漢字オリンピックの実施・確認	2~6年担任
8・9	○ 全国学力・学習状況調査の分析 ※ 個別に支援を要する児童の「指導計画」の評価C・改善A ◎ 第1回「活用力育成シート」の実施・定着の確認	教務・6学年 該当学年・担任外 4,5,6学年担任
10	※ 個別に支援を要する児童の「指導計画」の作成P(後期)・実践D(~2月)	該当学年・担任外
11		
12	◆ 第2回漢字オリンピックの実施・確認 ◎ 第2回「活用力育成シート」の実施・定着の確認	全学年担任 4,5,6学年担任
1		
2	○ 学力調査(NRT)の実施(全学年 国語科・算数科) ○ リーディングテスト(RT)の実施(4~6学年) ※ 個別に支援を要する児童の「指導計画」の評価C・改善A(教育課程)	全学年担任 4,5,6学年担任 該当学年・担任外・教務
3	◆ 第3回漢字オリンピックの実施・確認 ○ NRTの分析・定着の確認(学級・学年・学校全体)	教務・全学年

- 「活用力育成シート」の実施における留意点(4年生以上)
- ・ 国語科, 社会科, 算数科, 理科の指導計画に位置付け教科の時間に実施する。
(国語2, 社会2, 算数2, 理科2)
 - ・ 活用力育成シートを活用した授業を行うことで, 教師の指導力改善を図る。
- 「漢字オリンピック」の実施における留意点
- ・ 事前に出題範囲を明らかにし, 学習の時間を十分に確保する。基本的な問題を出題する。
 - ・ 繰り返し問題に取り組みさせることで, できるだけ全員が合格できるようにする。尚, 合格については学級や児童の実態に配慮するものとする。